

早わかり 駿府城

駿府城 - 築城から埋め立てまで -



埋めぼうや

28年

地震の度に崩れて修復

天守・天守台の存続期間	略年表
天正 13(1585) 年	7月 徳川家康 築城開始 (築城 1回目)
天正 14(1586) 年	家康が浜松城から移る
天正 16(1588) 年	5月 天守の普請 (=工事)
天正 17(1589) 年	2月 小天守の普請
天正 18(1590) 年	8月 家康が江戸へ 中村一氏 (豊臣方武将) が城主になる
慶長 6(1601) 年	内藤信成 (徳川一門) が城主になる
慶長 12(1607) 年	2月 全国の大名に負担を命じる天下普請による大改修開始 (築城 2回目) 7月 家康が移り住む、7~8月天守台完成 12月 天守焼失 (建設途中か)
慶長 14(1609) 年	徳川頼宣 (家康の子) が城主になる
慶長 15(1610) 年	天守完成
元和 2(1616) 年	家康が駿府城で亡くなる
寛永 元(1624) 年	徳川忠長 (家康の孫) が城主になる
寛永 9(1632) 年	忠長が所領没収される。 これ以降城主不在となり、幕府の直轄地として江戸から来た役人が管理
寛永 12(1635) 年	城外の火事が引火、天守・櫓等焼失
寛永 15(1638) 年	御殿・櫓など再建する (天守再建せず)
宝永 4(1707) 年	宝永地震により石垣・建物被害
宝永 5(1708) 年	修復工事を行う
安政 元(1854) 年	安政地震により城内の建物ほぼ全壊
安政 4(1857) 年	修復工事を行う
明治 3(1870) 年	城門など建物の払下げ、取壊し開始
明治 29(1896) 年	陸軍歩兵連隊設置に伴い天守台取壊し・本丸堀埋立

天守はなぜ江戸時代の初めになくなつたのか

明治時代に廢城になるまで、火事や地震で被災する度に天守台や他の建物は再建されたのに対し、寛永 12 (1635) 年以降天守が再建されることはありませんでした。これは徳川家による江戸幕府の体制が盤石なものとなり、戦や権威のシンボルであった天守が必要ない、天下泰平の世になったことを示すと考えられています。

現在の駿府城

駿府城にあった三重の堀は近代化によって一部が埋め立てられましたが、三ノ丸堀 (外堀) は約半分、二ノ丸堀 (中堀) はほぼ完全に残つております、全国的にみても貴重な城です。現在は二ノ丸堀より内側が駿府城公園となり、東御門・巽櫓、坤櫓が復元・公開されています。

関連施設案内

公園マップ

天守台発掘調査現場見学ゾーン・発掘情報館きやっしる

アクセス

- TEL 054-220-0855
- JR 静岡駅より 歩歩約 15 分
- 新静岡駅より 歩歩約 12 分
- 東名高速道路静岡 IC より 車で約 17 分
- 新東名高速道路新静岡 IC より 車で約 18 分

(Google マップによる)

施設利用案内

【料金】 発掘情報館 きやっしる 入場無料

東御門・巽櫓	大人 200 円 小人 50 円	3 施設共通券
坤櫓	大人 100 円 小人 50 円	
紅葉山庭園	大人 150 円 小人 50 円	
		大人 360 円 小人 120 円

【開館時間】 9 時 ~ 16 時 30 分 (入場は 16 時まで)

【休館日】 発掘情報館 きやっしる 年末年始 (12/29 から 1/3 まで)

3 施設 月曜日 (休日・祝日の場合は休館振替無しで営業)、
年末年始

【お問い合わせ】 歴史・発掘 静岡市歴史文化課 054-221-1085

その他 ニノ丸施設管理事務所 054-251-0016

駿府城跡天守台

発掘調査

N A V I vol.5



静岡市歴史文化課

駿府城跡天守台発掘調査とこれまでの調査成果

駿府城公園再整備における天守台跡地の整備方針決定に向けて、天守台の大きさや残存状況などの学術的データを得るために、平成 28 年 8 月から令和 2 年 3 月まで掘削作業を行いました。

令和 2 年度からは出土資料の整理作業を行い、令和 3 年度末に報告書を発行する予定です。



慶長期(大御所家康)天守台

天守台の四辺を調査し、全容が明らかになりました。南北約 68m × 東西約 61m で日本一大きな天守台です。



天守台下御門と木橋の痕跡

二ノ丸から天守台のある本丸に入る所に橋が架かっていたとみられ、本丸側に天守台下御門がありました(写真②上部)。この付近から木橋の痕跡と思われる木材と柱穴が発見されました(写真③)。



天正期(豊臣方)天守台

慶長期天守台の内側から発見されました。南北約 37m × 東西約 33m で築城当時最大級の天守台とみられます。



天正期小天守台

天正期天守台の東側から発見されました。16世紀末の城郭で、天守台と小天守台を同時に確認できたのは、全国で初めてです。



天正期と慶長期の井戸

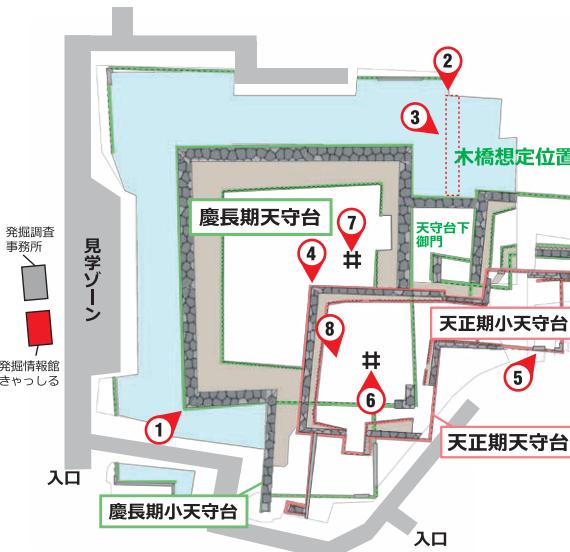
天正期・慶长期天守台の内側から井戸を発見しました。天正期井戸(写真⑥)、慶长期井戸(写真⑦)はそれぞれ内径が約1.8mあります。



見学ゾーン&発掘情報館 きやっしるの見どころ



二時期にわたる大迫力の天守台を見学できます。慶长期天守台は加工した石を積み上げて築いており、天正期天守台は未加工の自然石を積み上げた野面積みで築いています。



のきまる のひらがわら しゃちがわら
軒丸・軒平瓦や鰐瓦などが出土しています。見学ゾーン南側では、金箔瓦の大量出土地点を見ることができます。



最新情報は「発掘情報館きやっしる別館」へ→

『駿府城まるわかり』500円 /
『発掘調査概報』200円 販売中!



発掘情報館きやっしるでは、出土品とともに最新の調査成果を展示しています。



今川期の薬研堀・磁器等

天正期天守台の内側から今川期の薬研堀(断面がV字状の堀)、中国製の磁器、常滑焼の甕などが出土地點しました。



埋文ぼうや